

初級編

初級編では、まちの安全診断と財産目録づくりをテーマにDIGを進めていきます。安全診断とは、危険な個所がどこに潜んでいるのかを土地の特徴などからみんなで考えていきます。DIGは防災の視点で都市構造をとらえ、地域の弱点を知ることから始まります。

1 自然条件の確認

まず最初に現在の自然条件を確認します。

- ・山やがけの位置
- ・河川、池沼の位置 など

また、必須ではありませんが、昔の自然条件が分かると現在との比較ができます。

- ・昔は河川や池沼となっていたところが今はどうなっているか
- ・宅地化されている場所はどのような場所であったのか など

2 まちの構造の確認

まちの構造を理解するために、地図に色をつけていきます。使う色に決まりはありませんが、地図が完成したときにイメージしやすい色を選んでください。また、マジックで塗る対象と色、シールを貼る対象と色の凡例をつくりましょう。

(1) 鉄道を塗る

工場の引き込み線などの線路軌道も対象にします。

(2) 主要道路を塗る

国道や県道など主要な道路から順番になぞっていきます。書き込みが進むと街区(ブロック)が目立つようになります。

(3) 路地、狭隘道路を塗る

道幅が狭くて消防車が入れないような路地、狭隘道路(2m以下)をなぞっていきます。これで塗られた範囲は、古い木造家屋が密集している可能性が高い地域です。倒壊危険度が高く、出火や延焼の危険性が高が高く、避難路の確保も難しくなります。

(4) 広場、公園、オープンスペースを塗る

広場、公園、オープンスペース(学校、寺社仏閣、田畑、空き地など)を塗っていきます。どこに、どのくらいの場所があるのかを理解することがポイントです。

(5) 水路、用水、小河川を塗る

水路、用水、小河川などの自然水利や海岸線を塗っていきます。水道が使えなくなったときに、消火用水や生活用水を確保する場所を把握するためです。

(6) 焼け止まり線(延焼火災のときに延焼を防いでくれる建物)を塗る

焼け止まり線になりそうな鉄筋コンクリート造の建物(ビル、マンション、テパ ートなど)を塗っていきます。木造家屋が密集している地域の周辺にあれば、延焼を食い止めてくれるかもしれません。

3 地域の人的・物的防災資源を書き込む

地域の防災を考える上で、プラスにもマイナスにも働く施設や設備などを書き込みます。地図記号で記入したり、シールや付箋を使用して地図上に表示してください。

(1) 官公署、医療機関など災害救援に関わる機関、施設を表示する

市役所、町役場、消防署、警察署、学校、幼稚園、病院、診療所、公民館、社会福祉施設、ヘリポートなど、災害救援に関わる機関を地図上に表示します。

(2) 地域防災に役立つ施設などを表示する

避難地、避難所、救護所、食料・日用品・薬品・燃料等の販売店、防災倉庫、重機を持っている企業、防火水槽、街頭消火器、プールなどを地図上に表示します。

(3) 転倒、落下、倒壊したときに危険となる施設を表示する

ブロック塀、石垣、屋外広告物、自動販売機、危険物の貯蔵施設等を地図上に表示します。

(4) 地域防災に役立つ人材を表示する

自治会長、自主防のリーダー、消防署・消防団のOB・OG、医療・看護職のOB・OG、自治体職員のOB・OG、民生委員、児童委員、通訳(外国語・手話)福祉関係者など、地域の防災を考える上で、頼りになる人のいる場所を表示します。

(5) 災害時要配慮者のいる世帯を表示する

一人暮らしの高齢者、寝たきりの人、身体・知的・精神障害者、妊産婦、乳幼児のいる家庭、外国人など、地域防災を考える上で、配慮すべき人のいる場所を表示します。ただし、必要のない個人情報を出さないようにしましょう。個人情報の保護については最大限の配慮が必要です。

4 まとめ

書き込みが行われた地図を見ながら、みんなで検討していきます。

まずは、グループごとに次の項目について話し合います。重複しても構わないので、次の項目について、項目ごとに各自で付箋に書き出します。そして、グループごとに話し合ってまとめてみましょう。

- ・この地域の特徴は？
- ・防災、災害救援についてのプラス要素は？
- ・防災、災害救援についてのマイナス要素は？

次に各グループごとに発表してもらい、参加者全員で発見を共有します。自らの発見を確認し、お互いの発見を共有するには、まとめと発表は不可欠です。グループ数が多かったり、時間が限られている場合は、一部のグループの発表だけでも構いません。DIGのまとめとなりますので、必ず行ってください。